

第7節 保 健 体 育

第1 本資料の活用について

1 作成の基本的な考え方

1-1 基本方針から

保健体育科における学習計画及び評価計画を作成する際の参考となるよう、学習評価の基本方針である「生徒の学習改善につながるものにしていくこと」や「教師の指導改善につながるものにしていくこと」に基づき、指導計画の作成から学習評価の考え方、学習指導、指導改善に至る過程を系統的かつ具体的に取り上げて作成した。

1-2 学校体育必携との関連

埼玉県教育委員会が毎年作成している「学校体育必携」では、指導と評価の一体化を図るために「指導と評価の計画」を一覧表形式として示している。各学校において学習指導要領に基づく学習指導・評価が円滑に進むよう、本資料を「学校体育必携」と関連付けた内容で作成した。

2 取り上げた内容

第1 本資料の活用について

第2 保健体育科における学習指導と評価

- 1 育成を目指す資質・能力の三つの柱について
- 2 観点別学習状況の評価の観点について
- 3 「体育や保健の見方・考え方」を働かせる指導のポイントについて
- 4 保健体育科における「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づく授業改善について

第3 指導計画作成と評価、改善

- 1 指導計画の作成と評価、改善の考え方
- 2 指導計画作成の手順と留意点
- 3 指導と評価の計画（参考例）

第4 本時の学習指導と評価、改善

- 1 本時の学習指導と評価、改善の考え方
- 2 学習指導案の実際（参考例）

第5 保健体育科における学習評価への総括例

- 1 単元における観点ごとの評価の総括例
- 2 学期末における観点ごとの評価の総括例
- 3 学年末における観点ごとの評価の総括例

指導計画作成の留意事項

編成要領（編P112）で示した「指導計画作成に当たっての留意すべき事項」との関連についても本資料で示していく。

- (1) 「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた生徒への指導」の視点
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点
- (3) 「教科等横断的」な視点
- (4) 「社会に開かれた教育課程」の視点
- (5) 「道徳教育の充実」の視点

- ◆単元の目標の設定について
- ◆単元の評価規準の設定について
- ◆学校体育必携との関連について

- ◆ねらい、活動、振り返り、まとめそれぞれのつながりを意識した授業の展開について

3 本資料の活用にあたって配慮すること

「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の三つの観点で評価していくことを鑑み、各学校で評価規準を作成する際の資料として活用する。また、指導計画の作成及び学習指導を展開する上では、埼玉県中学校教育課程編成要領、学校体育必携及び学校健康教育必携を併せて活用する。

4 学力・学習状況調査等の活用

近年の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果から、本県では以下の傾向が見られる。

- ・ 1週間の総運動時間60分未満の中学校2年生は、全国平均と比較すると男女とも少ない。
- ・ 運動やスポーツが好きな生徒の割合は、男女とも全国平均を下回っている。
- ・ 授業の中でたくさん体を動かしていると感じている生徒、授業の目標が示されているという生徒、振り返る活動を行っていると感じた生徒の割合は全国平均を上回っている。

このような状況を踏まえ、本資料では、生徒がより運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、単元を通して学習のねらい、活動、振り返りが一連の流れに沿った事例を掲載していく。

第2 保健体育科における学習指導と評価

1 育成を目指す資質・能力の三つの柱について

1-1 目標

「中学校学習指導要領 第2章 第7節 保健体育」では、保健体育科の目標として「体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。」という前段の後、三つの柱に沿って目標が示されている構成となっている。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
教科の目標	各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。	運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

1-2 各学年の目標及び内容

各学年の目標は、〔体育分野 第1学年及び第2学年〕、〔体育分野 第3学年〕、〔保健分野〕に分けて示されており、それぞれ（1）知識及び技能、（2）思考力、判断力、表現力等、（3）学びに向かう力、人間性等の三つの柱で整理されている。

内容についても、それぞれの内容が育成を目指す三つの資質・能力である（1）知識及び技能、（2）思考力、判断力、表現力等、（3）学びに向かう力、人間性等に対応した構成となっている。

〔体育分野 第1学年及び第2学年〕「A 体づくり運動」の内容

<p>1 目標</p> <p>(1) 運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わい、運動を豊かに実践することができるようにするため、運動、体力の必要性について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 運動についての自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たす、一人一人の違いを認めようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。</p> <p>2 内容</p> <p>A 体づくり運動</p> <p>体づくり運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>(1) 次の運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体づくり運動の意義と行い方、体の動きを高める方法などを理解し、目的に適した運動を身に付け、組み合わせること。</p> <p>ア 体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体との関係や心身の状態に気付き、仲間と積極的に関わり合うこと。</p> <p>イ 体の動きを高める運動では、ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動を行うとともに、それらを組み合わせること。</p> <p>(2) 自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>(3) 体づくり運動に積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた動きなどを認めようとする、話合いに参加しようとするなどや、健康・安全に気を配ること。</p> <p style="text-align: right;">(以下 略)</p>
--

2 観点別学習状況の評価の観点について

2-1 主な改善点について

目標及び内容を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の三つの柱で再整理した学習指導要領の下での指導と評価の一体化を推進する観点から、観点別学習状況の評価の観点についても、これらの資質・能力に関わる「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理して示す。

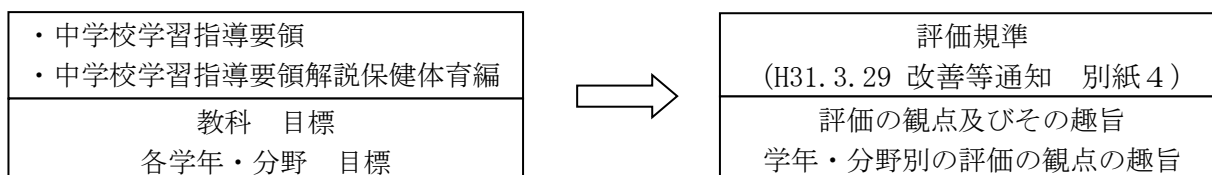
2-2 保健体育科における「主体的に学習に取り組む態度」について

学習指導要領において、体育分野については、「学びに向かう力、人間性等」と対応した目標と内容を（3）として示している。評価の観点である「主体的に学習に取り組む態度」については、従前の「関心・意欲・態度」が相当し、愛好的態度、公正・協力、責任・参画、共生、健康・安全に関する態度の評価規準を作成する。具体的には、進んで学習活動に取り組む、約束を守り公正に行動する、友達と協力して活動する、自分の役割を果たそうとする、友達の考えや取組を認める、安全に気を配る等の実現状況を評価する。

「学びに向かう力、人間性等」の内容には、粘り強い取組を行おうとしている側面や自らの学習を調整しようとする側面が含まれている。

保健分野については、「学びに向かう力、人間性等」に関する記載がないことから、改善等通知における「主体的に学習に取り組む態度」の「評価の観点及びその趣旨」に示された内容を踏まえ、文末を「～しようとしている」として評価規準を作成、評価する。

2-3 学習指導要領の目標及び内容と学習評価の関連



学習指導要領の目標を踏まえ、観点別学習状況の評価の対象とするものについて整理したものが「観点の趣旨」となる。「改善等通知（H31.3.29）別紙4『各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨』」には、次のとおり示されている。

【評価の観点及びその趣旨】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣 旨	運動の合理的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに実践するための理論について理解しているとともに、運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。また、個人生活における健康・安全について科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動の合理的な実践に自主的に取り組もうとしている。また、健康を大切にし、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。

【学年・分野別の評価の観点の趣旨】

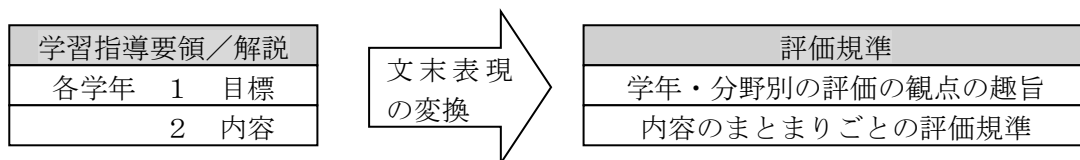
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
体 育 分 野	第1学年及び第2学年	各運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、伝統的な考え方、各領域に関連して高まる体力、健康・安全の留意点についての具体的な方法及び運動やスポーツの多様性、運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方についての考え方を理解しているとともに、各領域の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	運動を豊かに実践するための自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、共生などに対する意欲をもち、健康・安全に留意して、学習に積極的に取り組もうとしている。

体育分野	第3学年	選択した運動の技の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法及び文化としてのスポーツの意義についての考え方を理解しているとともに、選択した領域の運動の特性に応じた基本的な技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに実践するための自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して、学習に自主的に取り組もうとしている。
保健分野		健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、個人生活を中心として科学的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、個人生活における健康に関する課題を発見し、その解決を目指して科学的に思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康、傷害の防止、健康と環境について、自他の健康の保持増進や回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。

2-4 「内容のまとめりごとの評価規準」について

2-4-1 「内容のまとめりごとの評価規準」とは

中学校学習指導要領に示す「第2 各学年の目標及び内容」の「2 内容」において、「内容のまとめり」ごとに育成を目指す資質・能力が示されている。このため、「2 内容」の記載はそのまま学習指導の目標となる。学習指導要領の目標に照らして観点別学習状況の評価を行うに当たり、生徒が資質・能力を身に付けた状態を表すために、「2 内容」の記載事項の文末を「～すること」から「～している」へ変換したもの等を、「内容のまとめりごとの評価規準」という。



2-4-2 「内容のまとめり」とは

中学校学習指導要領に示す各教科等の「第2 各学年の目標及び内容 2 内容」の項目等をそのまとめりごとに細分化したり整理したりしたものである。

【中学校保健体育科の「内容のまとめり」】

体育分野 〔第1学年及び第2学年〕	A 体づくり運動
	B 器械運動
	C 陸上競技
	D 水泳
	E 球技
	F 武道
	G ダンス
	H 体育理論 (1)運動やスポーツの多様性 (2)運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方

体育分野 [第3学年]	A 体づくり運動
	B 器械運動
	C 陸上競技
	D 水泳
	E 球技
	F 武道
	G ダンス
	H 体育理論 (1)文化としてのスポーツの意義
保健分野	(1) 健康な生活と疾病の予防
	(2) 心身の機能の発達と心の健康
	(3) 傷害の防止
	(4) 健康と環境

2-4-3 「内容のまとまりごとの評価規準」について

「内容のまとまりごとの評価規準」は全教科共通で作成されることになっており、「内容のまとまり」と評価の観点との関係を構造的に理解する必要がある。学習指導や学習評価を行う際、学習指導要領の内容から逸脱しないように「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

〔体育分野 第1学年及び第2学年〕「B 器械運動」の例

学習指導要領 2 内容	器械運動について、次の事項を身に付けることができるよう指導する。		
	知識及び技能 (1) 次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、技をよりよく行うこと。 ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせること。 イ 鉄棒運動では、支持系や懸垂系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせること。 ウ 平均台運動では、体操系やバランス系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせること。 エ 跳び箱運動では、繰り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと。	思考力、判断力、表現力等 (2) 技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。	学びに向かう力、人間性等 (3) 器械運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとする事、仲間の学習を援助しようとする事、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする事などや、健康・安全に気を配ること。

文末表現	○「知識」の指導内容 →「～について理解している」 ○「技能」の指導内容 →「～できる」	「～課題を発見し、～を工夫するとともに、～を他者に伝えている」	「～ようとする事などをしたり、～している」
------	---	---------------------------------	-----------------------

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとめ()の評価規準(例)	○知識 ・器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解 <u>している。</u>	・技などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に <u>伝える。</u>	・器械運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとする、仲間の学習を援助しようとする、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする <u>ことなどをしたり、健康・安全に気を配ったりしている。</u>
	○技能 ・マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせることが <u>できる。</u> ・鉄棒運動では、支持系や懸垂系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせることが <u>できる。</u> ・平均台運動では、体操系やバランス系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを組み合わせることが <u>できる。</u> ・跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと <u>ができる。</u>		

〈健康・安全に関する態度〉に関することについては、「～しようとしている。」ではなく、「～している。」と表記する。

3 「体育や保健の見方・考え方」を働かせる指導のポイントについて

- ・ 生徒の発達の段階に応じて、体育の見方・考え方を育てていくとともに、見方・考え方を働かせる場面を設定することが大切である。
- ・ 運動を楽しく行い、動きや技能が高まるとともに、体力の向上を実感できるような場面を意図的に設定することが大切である。
- ・ 運動についての生徒相互の見合いや教え合い、新たな知識の獲得が、楽しさや喜びにつながるようにするとともに、「運動はうまくなければ楽しめない」などの偏見や負の見方・考え方を抱くことのないよう、留意することも大切である。

4 保健体育科における「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づく授業改善について

4-1 主体的な学び

学習への興味や関心を喚起したり、学習の見通しをもてるようにしたりするとともに、学んだことができるようになったことを自覚し、新たな学びにつなげることが大切である。

4-2 対話的な学び

運動についての課題を解決する際、他者（書物等も含む）との対話を通して、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにすることが大切である。

4-3 深い学び

生徒が学習の過程において、課題の解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深めるとともに、体育や保健の見方・考え方を働かせることができるよう、指導を工夫することが大切である。

第3 指導計画作成と評価、改善

1 指導計画の作成と評価、改善の考え方

1-1 各単元の指導計画の作成と評価、改善の留意点

1-1-1 保健体育科におけるカリキュラム・マネジメントの充実

育成を目指す資質・能力の三つの柱をバランスよく、確実に身に付けることができるよう、主体的・協働的な学びの過程を工夫していくことが重要である。生徒が保健体育科の授業を通して学んだ「見方・考え方」を実生活や実社会で生かし、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することができるように、3年間を見通した指導計画を作成する。

- ・ 体力の向上を重視する観点から、体づくり運動の内容等について改善を図るとともに、体力向上についての取組と授業のつながりについて配慮する。
- ・ 体育分野と保健分野で示された指導内容について、相互の関連が図られるよう、時期や内容等を工夫する。
- ・ 体育・健康に関する指導につながる健康安全、体育的行事等との関連を図る。

1-1-2 学びや伸びを積み重ねる指導計画の作成と評価、改善の工夫

- ・ 単元の前半では、運動の特性に触れる楽しさが味わえるよう、生徒全員が初期段階で行える易しい運動に取り組んだり、既習内容の確かめとなる運動や試しのゲームを行ったりする。
- ・ 運動の行い方や運動・安全の確保の仕方などの科学的知識を基に運動の技能を身に付けることでその理解を一層深めたりするなど、知識と技能を関連させて学習できるようにする。
- ・ 単元を通して一人一人に「楽しさ」を味わわせたり、「伸び」を感じさせたりしながら授業で資質・能力を高めることができるよう工夫する。
- ・ 1時間の授業のみで完結するのではなく、目指すゴール像へ向けて、単元を通してつながりをもたせ、それを生徒が感じることができるようにする。

明確なゴール像 資質・能力の三つの柱をバランスよく身に付けた具体的な生徒の姿				
例	1	2～	X	
	<p>単元や運動との出会い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しさを味わう ・ 今の力で行う <p>オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 確かめの運動 ・ 試しのゲーム ・ 生徒全員が行える易しい運動 	<p>共通に学ばせること (生徒に教えること)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 既習の技に取り組む ・ 共通の課題に取り組む ・ みんなでやってみる ・ 個人やペア、グループのスキルアップに取り組む 	<p>自主的・主体的に学ぶこと (生徒に委ね、考えさせること)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発展技に取り組む ・ 挑戦意欲をかき立てる課題に取り組む ・ 選んだり、決めたりした活動に取り組む ・ チームが勝つための学習、グループの発表に向けて取り組む 等 	<p>成果の確かめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伸びた喜びを味わう ・ 高めた力で行う <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の伸びやチーム、グループの成果を確認し、振り返りを行う (例) 記録会 発表会 〇〇大会 等
	<p>やって楽しい！ 授業前にもっている力</p>	<p>単元を通して一人一人に 「楽しさ」「伸び」を味わわせる</p>		<p>もっと楽しい！ 授業で高まった姿</p>
<p>単元において、1時間1時間のつながりを感じられる指導と評価の計画が大切</p>				

1-2 各単元の指導計画の評価に基づいた計画の見直しと授業改善

- ・ 単元終了時や学期末、学年末に実践を踏まえた改善点等を指導計画に朱書きするなど、次年度の指導に確実につなげていくことが重要である。また、使用した学習資料や学習カード、教具、電子データを整理及び保存する。
- ・ 中学校の3年間を見通した上で目標や内容を的確に定める。特に、体育分野においては、【第1学年及び第2学年】と【第3学年】のそれぞれを一つのまとまりの大きな単元として捉え、各学年で重点的に指導する内容を明らかにするとともに、生徒の習熟状況に応じて、次年度の指導計画に反映させる。

2 指導計画作成の手順と留意点

2-1 単元の目標を作成する。

学習指導要領本文の「2 内容」や学習指導要領解説から、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力について、「何ができるようになるか」という生徒が変容した姿を箇条書きで示す。文末は「～することができるようにする」と表記する。

2-2 単元の評価規準を作成する。

- (1) 「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方等を踏まえ、評価場面や評価方法等を計画する。
- (2) 学習指導要領解説保健体育編の内容に示されている「例示」の文末を変えて、全ての「単元の評価規準」を作成する。
- (3) 「内容のまとまりごと」に育成する資質・能力のバランスを検討した上で、指導事項を配置し、全ての「単元の評価規準」から選択するなどして、当該単元における「単元の評価規準」を設定する。

【単元の評価規準（例）（体育分野 第1学年 B 器械運動 ア マット運動）】

中学校学習指導要領解説 保健体育編 内容の「例示」を参考に作成した全ての「単元の評価規準」から選択するなどして、当該単元における「単元の評価規準」を設定する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <p>①器械運動には、多くの「技」があり、これらの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことができることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>②技の名称は、運動の基本形態を示す名称と、運動の経過における課題を示す名称によって名づけられていることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>○技能</p> <p>③体をマットに順々に接触させて回転するための動き方や回転力を高めるための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかにして回ることができる。</p> <p>④バランスよく姿勢を保つための力の入れ方、バランスの崩れを復元させるための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかにして静止することができる。</p>	<p>①提供された練習方法から、自己の課題に応じて、技の習得に適した練習方法を選んでいる。</p> <p>②学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。</p> <p>③仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。</p> <p>「思考・判断・表現」は、 ・「思考・判断」(①と③) ・「表現」(②) の評価規準に分けて作成する。</p>	<p>①器械運動の学習に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>②練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。</p> <p>③健康・安全に留意している。</p> <p>「主体的に学習に取り組む態度」は、 ・愛好的態度 (①) ・公正・協力 (②) ・責任・参画 ・共生 ・健康・安全 (③) の各項目に分けて評価規準を作成する。</p> <p>※本事例では、責任・参画や共生に関する評価場面は第2学年に設定する計画としている。</p>
<p>「知識・技能」は、 ・「知識」(①と②)と ・「技能」(③と④)の評価規準に分けて作成する。</p>		

2-3 「指導と評価の計画」を作成する。

生徒の発達の段階を踏まえ、各校で作成した指導計画(ねらい・指導内容・学習過程)の下に評価計画を重ね合わせる。(第1学年及び第2学年は、目標や内容がまとめて示されていることを考慮する。)

【指導と評価の計画（例）（8時間扱い） 本時は○印 6／8時】

時間	1	2	3	4	5	⑥	7	8
ねらい	※ 単元の明確なゴール像（目標や内容「何を学ぶか」、資質・能力「何ができるようになるか」など）を明確にした上で、各時間のねらいを設定し、記入する。							
指導内容	※ 各時間のねらいに沿った指導内容や、単元のゴール像に向けて各時間で必要となる指導内容について記入する。							
学習過程	0分 オリエンテーション 例 1・・・ 2・・・ 3 学習の進め方の確認 4 基本的な既習技の確認 5・・・	例			<ol style="list-style-type: none"> 1 集合、整列、挨拶、健康観察 2 前時の振り返り 3 準備運動 4 学習の場づくり、用具の準備 5 感覚づくりの運動 6 本時のねらいや学習内容等の確認 7 練習 8 練習の成果の確認 (記録会、発表会、ゲーム等) 9 自己評価、相互評価 10 整理運動、片付け 11 学習の振り返りとまとめ 12 整列、健康観察、挨拶 			
50分	※ 授業で教えるべきことを明記する。 ・技能だけでなく、他の指導内容についても明記する。 ・「共通に学ばせること」（生徒に教えること）と「自主的・主体的に学ぶこと」（生徒に委ね、考えさせること）を明確にする。							
評価計画	知・技	①			②③		④	
	思・判・表	「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」を、単元を通してバランスよく評価する。						
	態	①						
	方法	観察・カード	観察・カード	知識・カード	知識・カード	知識・カード	知識・カード	知識・カード
	場面	3, 4, 9	7, 8, 9	よりよいタイミングに、よりよい方法で確実に見取る。				7, 8, 9

※ 「評価計画」の「学習評価の観点」は、「知識・技能」を「知・技」、「思考・判断・表現」を「思・判・表」、「主体的に学習に取り組む態度」を「態」と略して記す。毎時間の欄には、その時間の「ねらい」に対応した「単元の評価規準」の番号を記す。

※ その下段には「評価方法」を具体的に記し、その下の「評価場面」には主にどの場面で評価するのかを、上段の学習過程の番号を対応させて記す。

※ ここでの評価は1時間ごとの「ねらい」に正対した振り返りを行い、それを受けて次時につなげていく評価である。1時間の「学習評価の観点」は、原則一つ（本時のねらい、指導内容、学習過程において、関連が深い場合は二つまで可）とし、適切に評価できるようにする。

また、努力を要する状況の生徒に具体的な手立ては、単元を通じて講じるとともに、単元終了時まで総括的に指導と評価を繰り返すことが大切である。

埼玉県教育委員会では、平成28年度から保健体育科の学習指導案形式を刷新した。

特に、「指導と評価の計画」を一覧表形式とすることで、指導と評価の一体化を図ることとした。この「指導と評価の計画」の作成は、各学校で作成する年間指導計画（単元ごとの指導計画）にも転用しやすい形式となっており、実践した授業から成果と課題を分析し、次年度の年間指導計画に生かす「PDCAサイクル」を確立させることができる。

また、埼玉県教育委員会では、毎年発行する「学校体育必携」において、「学習指導計画作成上の留意点」を示し、県内各地で共有可能な学習指導案を作成できるようにしている。

3 指導と評価の計画（参考例）

＜事例1＞2年間同一種目を設定することで、より学習内容の定着を図ることをねらった事例

第1学年 体育分野「器械運動」（マット運動）

内容のまとめり：第1学年及び第2学年 ◆内容名 B器械運動 A マット運動（編P121参照）

当該単元で身に付ける項目を
記入する。（P157 参照）

- (1) 単元の目標 ※（ ）内は、第2学年で取り扱う項目とする。
- ・ マット運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などについて理解するとともに、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うと、条件を変えた技（や発展技）を行うこと（及びそれらを組み合わせること）ができるようにする。 〈知識及び技能〉
 - ・ 自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 〈思考力、判断力、表現力等〉
 - ・ マット運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとする、（仲間の学習を援助しようとする、）（一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする）などをしたり、健康・安全に気を配ったりすることができるようにする。 〈学びに向かう力、人間性等〉

(2) 単元の評価規準（例）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <p>①マット運動には、多くの「技」があり、これらの技に挑戦し、その技ができる楽しさや喜びを味わうことができることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>②マット運動は、種目に応じて多くの「技」があり、技の出来映えを競うことを楽しむ運動として多くの人々に親しまれてきた成り立ちがあることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>③技の行い方は技の課題を解決するための合理的な動き方のポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。</p> <p>○技能</p> <p>④体をマットに順々に接触させて回転するための動き方や回転力を高めるための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかにして回ることができる。</p> <p>⑤バランスよく姿勢を保つための力の入れ方、バランスの崩れを復元させるための動き方で、基本的な技の一連の動きを滑らかにして静止することができる。</p> <p>⑥全身を支えたり突き放したりするための動き方で、基本的な技の一連の動き滑らかにして回転することができる。</p>	<p>①掲示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。</p> <p>②提供された練習方法から、自己の課題に応じて、技の習得に適した練習方法を選んでいる。</p> <p>③仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。</p>	<p>①マット運動の学習に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>②健康・安全に留意している。</p> <p>③よい技や演技に称賛の声をかけるなど、仲間の努力を認めようとしている。</p>

- (3) 指導と評価の計画（8時間扱い） 本時は○印 ○／8時
次ページ参照

(4) 評価の改善ポイント（例）

- ・ 第1学年では、基本的な技の習得に重点を置いて指導計画を作成する。
- ・ 同じ単元を2年間で学ばせるため、「発展技」や「組み合わせる」ことは第2学年へ送る。

(5) 家庭学習の活用

- ・ 風呂上りにストレッチ等を行うことで、柔軟性の向上や関節の可動域を高められるようにする。
- ・ かえる倒立、ゆりかごなどの簡単にできる感覚づくりの運動を自宅で取り入れるように助言する。
- ・ 手本となる映像コンテンツや資料等を準備し、学習者用PCで視聴できるようにする。

指導と評価の計画 (8時間扱い) 本時は○印 ○ / 8時

時間	1	2	3	4	5	6	7	8
ねらい	マット運動の特性を理解し安全に舌動しよう	マットに体を順番通りに付けて回ろう	体力を入れてバランスよく姿勢を保とう	手や足で全身を支えよう	練習などで自分の役割を見付けよう	技の動きのポイントや出来映えを仲間伝えよう	自己の課題に応じて、練習方法を選択しよう	よい技には称賛の声をかけよう
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> 特性 約束事 役割分担 <p>P150 指導計画(作成の留意事項⑤)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 回転の動き方 回転力を高める動き方 	<ul style="list-style-type: none"> 力の入れ方 バランスが崩れた時の直し方 補助の仕方 	<ul style="list-style-type: none"> 着手の仕方 回転力を高める動き方 起き上がりやすくなる動き方 課題の解決方法 	<ul style="list-style-type: none"> 技のポイントを確認 役割分担 まとめの演技の仕方 	<ul style="list-style-type: none"> 技のポイントを確認 ICTや資料等の活用方法 	<ul style="list-style-type: none"> 技のポイントの確認 練習方法の選択 成果発表の仕方 	<ul style="list-style-type: none"> 分担の確認 発表 <p>P150 指導計画(作成の留意事項⑤)</p>
学習過程	<p>1 集合、整列、出欠確認、健康観察、挨拶</p> <p>2 オリエンテーション</p> <p>3 マットの準備</p> <p>4 感覚づくりの運動 ※全員が行える易しい運動</p> <p>5 片付け</p> <p>6 学習の振り返りとまとめ</p> <p>7 挨拶</p>	<p>1 集合、整列、出欠確認、健康観察、挨拶</p> <p>2 準備運動、補強運動</p> <p>3 器具の準備</p> <p>4 感覚づくりの運動</p> <p>5 本時のねらいの確認</p>	<p>6 前時の復習</p> <p>7 基本的な技のポイントと習得 【巧技系】 〈平均立ち技群〉 ・片足平立ち ・頭倒立 ・補助倒立 など</p> <p>8 技の課題の確認</p> <p>9(10) 整理運動</p> <p>10(11) 本時の振り返りとまとめ</p> <p>11(12) 挨拶</p>	<p>6 自己の技の課題の確認、練習方法の選択</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己や他からのアドバイスを基に課題を把握する <p>7 ペアやグループで課題別練習</p> <p>《基本的な技》</p> <ul style="list-style-type: none"> 手の付き方 回り方 (順番、滑らか) 起き上がる 場の設定 (技や課題ごと) <p>8 結果の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> 練習の成果を発表する 見てもらうポイント伝える ポイントを分担して見る 	<p>6 自己の技の課題の確認、練習方法の選択</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己や他からのアドバイスを基に課題を把握する <p>7 《条件を変えた技》</p> <ul style="list-style-type: none"> 開始姿勢や終末姿勢 動きの組み合わせ <p>8 単元のまとめ</p>	<p>6 1時間の「学習評価の観点」は、原則一つ(本時のねらい)、指導内容、学習過程において、関連が深い場合は二つまで可)とし、適切に評価できるものにする。また、努力を要する状況の生徒への具体的な手立ては、単元終了時まで総括的に指導と評価を繰り返すことが大切である。(P158 参照)</p>		
知・技	②	① ④	⑤	⑥	③	③	②	
思弁・表態	②				③	①		③
方法	カード	観察・カード	観察・カード	観察・カード	観察・カード	観察・カード	観察・カード	観察
場面	6	6	7	7	7, 8	7, 8	6, 7	6, 7

＜事例2＞ペア活動を通して分析や課題解決を図り、動きの質を高めることをねらった事例
 第3学年 体育分野「陸上競技」（長距離走）
 内容のまとめ：第3学年 ◆内容名 C 陸上競技 ア 長距離走（編 P120参照）

当該単元で身に付ける項目
 を記入する。（P157 参照）

- (1) 単元の日標 ※ () 内は、他の内容・単元で取り扱う項目とする。
- ・ 長距離走の技術の名称や行い方、(体力の高め方、) 運動観察の方法を理解するとともに、自己に適したペースを維持して走ることができるようにする。 〈知識及び技能〉
 - ・ 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 〈思考力、判断力、表現力等〉
 - ・ 長距離走に自主的に取り組むとともに、(勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする事、) (自己の責任を果たそうとする事、) 一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとする事などをしたり、健康・安全を確保したりすることができるようにする。 〈学びに向かう力、人間性等〉

(2) 単元の評価規準 (例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 ①長距離走で用いられる技術の名称があり、それぞれの技術には、記録の向上につながる重要な動きのポイントがあることについて、学習した具体例を挙げている。 ②自己の動きや仲間の動き方を分析するには、自己観察や他者観察などの方法があることについて、学習した具体例を挙げている。 ○技能 ③リズムカルに腕を振り、力みのないフォームで軽快に走ることができる。 ④自己の体力や技能の程度に合ったペースを維持して走ることができる。	①自己や仲間の技術的な課題やその課題解決に有効な練習方法の選択について、自己の考えを伝えている。 ②選択した運動について、合理的な動きと自己や仲間の動きを比較して、成果や改善すべきポイントとその理由を仲間に伝えている。 ③体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに陸上競技を楽しむための活動の方法や修正の仕方を見付けている。	①長距離走の学習に自主的に取り組もうとしている。 ②一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとしている。 ③健康・安全を確保している。

- (3) 指導と評価の計画 (7時間扱い) 本時は○印 ○/7時
 次ページ参照

(4) 評価の改善ポイント (例)

- ・ 個人の目標が立てやすくなるよう、1時間目に単元全体の見通しを示し、記録会を行う。
- ・ 話し合い活動を毎時間取入れ、生徒同士の相互評価や自己評価の時間を確保する。
- ・ 話し合い活動で発言できない生徒に対しては、掲示物や言葉掛け集などを活用する。
- ・ 動きを客観的に見ることができるよう学習者用 PC を活用する。

(5) 家庭学習の活用

- ・ ランニングカードを授業と家庭で共有し、自主的に活動できるようにする。
- ・ 鏡の前で腕振りの練習をし、リズムカルに腕が振れるようにする。
- ・ 心拍数を測定し、体調管理や体調の変化に気付くことができるようにする。

指導と評価の計画(7時間扱い) 本時は○印 ○/7時

時間	1	2	3	4	5	6	7
ねらい	学習のねらいを理解して見通しをもち、安全に留意して走ろう	長距離走に適した走り方を知ろう	軽快に走るために自分や仲間の課題を伝え合おう	自己や仲間の選択を分析して練習の仕方を考えよう	練習の成果を仲間伝えて更なる記録向上を目指そう	自己の体力に合ったペースを維持して走ろう	仲間と競い合い、自己の記録に挑戦しよう
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> 学習の進め方 健康安全の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 長距離走のフォームや呼吸法 走りの分析方法 	<ul style="list-style-type: none"> 課題の見つけ方 アドバイスの仕方 	<ul style="list-style-type: none"> 課題に応じた練習方法の選択 話し合い活動の方法 	<ul style="list-style-type: none"> 練習方法やペースの修正方法 	<ul style="list-style-type: none"> ペース設定方法 ラップタイム表の活用方法 	<ul style="list-style-type: none"> 記録の測定 学習のまとめ
オリエンテーション	1 集合、挨拶、健康観察、心拍数測定 2 準備運動 3 感覚づくりの運動 4 本時のねらいと学習内容の確認						
学習過程	1 5分間走×2 <ul style="list-style-type: none"> ペアで活動 学習者用PCで撮影・確認 	5 10分間走 <ul style="list-style-type: none"> ペアで活動 学習者用PCで撮影・確認 	6 課題について話し合いやアドバイスを行う。 ・肩の力を抜き、リズムカルに腕を振る。 ・前傾しすぎずに胸を張る。 ・約20m前方に視線を向ける。 ・ピッチのリズムに呼吸を合わせる。	5 課題別学習 <ul style="list-style-type: none"> 課題別にペアを編成 ①ペース走1000m×2本 *目標ペースに対して一定のペースで走る。 ②ビルドアップ走10分間 *長い時間を効率のよい走り方を意識して走る。 ③インターバル走100m×4本×2セット *運動強度を高め、全身持久力を高める。 ペアでタイムやフォームを確認しながら技能を相互評価し、高まった技能や次の課題を把握する。 学習者用PCで撮影・確認 ①～③の中から自己の課題に応じた練習を選択し実施 	5 1、2年次の学習を踏まえて選択 ・ラップタイム表の活用	5 第2回記録会 3000m走 6 心拍数測定 7 整理運動 8 学習の振り返り 9 単元のまとめ 10 挨拶、片付け	P150 指導計画作成の留意事項(2)
知・技	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
思・判・表	学び合いを機能させ、課題解決の時間と手立てを設ける。	再度、知識の評価場面を設定し、技能との関連を図る。	話し合い活動が活発に行えるようにアドバイス集の活用	知識の活用を図り、分析、修正を繰り返して、技能の評価へつなげる。			
態	③						
方法	観察・カード	観察・カード	観察・カード	観察・カード	観察・カード	観察・カード	観察・カード
場面	3, 9	6, 9	6, 9	5, 6, 9	5, 6, 9	5, 6, 9	5, 9

＜事例3＞ 応急手当の実習を通して、知識と技能を関連させて身に付けることをねらった事例
第2学年 保健分野「傷害の防止」(応急手当の意義と実際)
内容のまとめ：2学年 ◆ (3) 傷害の防止 (編 P119参照)

(1) 単元の日標

- ・ 応急手当を適切に行うことによって、傷害の悪化を防止することができることを理解するとともに、心肺蘇生法などの技能を身に付けることができるようにする。 〈知識及び技能〉
- ・ 傷害の防止について、危険予測やその回避の方法を考えるとともに、それらを表現することができるようにする。 〈思考力、判断力、表現力等〉
- ・ 応急手当についての学習に自主的に取り組もうとすることができるようにする。 〈学びに向かう力、人間性等〉

(2) 単元の評価規準 (例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①傷害が発生した際に、迅速かつ適切な手当は傷害の悪化を防止できることについて言ったり書き出したりするとともに、包帯法や止血法としての直接圧迫法などの応急手当ができる。</p> <p>②心肺停止に陥った人に遭遇したときの応急手当について、言ったり書き出したりするとともに、胸骨圧迫、AED使用などの心肺蘇生法ができる。</p>	<p>①傷害の防止における事柄や情報などについて、保健に関わる原則や概念を基に整理したり、個人生活と関連付けたりして、自他の課題を発見している。</p> <p>②傷害に応じた適切な応急手当について、習得した知識や技能を傷害の状態に合わせて活用して、傷害の悪化を防止する方法を見い出している。</p>	<p>①傷害の防止についての学習に自主的に取り組もうとしている。</p> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>「主体的に学習に取り組む態度」は評価の観点の趣旨を参考にして、実際の学習をイメージして作成する。</p> </div>

「知識・技能」と「思考・判断・表現」は学習指導要領解説 保健体育編の内容や例示等を基に作成する。(P157 参照)

(3) 指導と評価の計画 (4時間扱い) 本時は○印 ○/4時
次ページ参照

(4) 評価の改善のポイント (例)

- ・ 限られた時間の中でスムーズに実習が行えるよう、ポイントや手順がわかりやすい資料を提示する。
- ・ 資料と合わせて ICT 機器を活用し、映像で確認しながら実習を行えるようにする。
- ・ 養護教諭等と連携して指導を行うなど、効率的で十分な指導が行える体制を整える。
- ・ 相互評価ができる学び合いカードを活用し、応急手当の正しい知識と技能を身に付けられるようにする。

(5) 家庭学習の活用

- ・ 包帯法について、授業で行ったことを、実際に家族に実践したり、家庭で応急手当に必要な物が常備されているか確認したりすることを促す。
- ・ 自分が生活する地域の AED の設置場所などの情報を把握しておき、有事の際に対応できるよう準備しておくことを促す。

指導と評価の計画（4時間扱い） 本時は○印 ○／4時

時間	1	2	3	4
ねらい	応急手当の意義や手順について理解する	包帯法や止血法としての直接圧迫法ができるようにする	心肺蘇生法の意味や手順について理解するとともに、心肺蘇生法ができるようにする	様々な傷害のケースに適した応急手当の方法や手順を理解する
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ・傷害の発生場面での対応 ・応急手当の意義や手順 	<ul style="list-style-type: none"> ・応急手当の基本を確認 ・包帯法の実習 ・直接圧迫法の実習 <p>「知識及び技能」を身に付ける</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・心肺蘇生法の意義や実施の手順 ・心肺蘇生法の実習 <p>「思考力、判断力、表現力等」を高める</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・傷害のケースに適した応急手当の方法と手順
学習過程	<ol style="list-style-type: none"> 1 本時の課題について考える。 2 学習のねらいを確認する。 3 自己の傷害経験とその対応 ・これまで経験した傷害とその対応について振り返らせる。 <p>・導入部分で、しっかり課題をつかみ、自主的に課題解決に取り組めるようにする。</p> <p>・傷害の状況により、対応が変わることも補足する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 前時の学習を振り返る。 2 学習のねらいを確認する。 3 応急手当の基本について理解する。 <p>＜直接圧迫法＞※要点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出血を止めるために患部を圧迫 ＜包帯法＞※要点 ・患部の保護や固定 4 直接圧迫法の実習 <p>（実施上の留意点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清潔なガーゼやタオルなどを傷口に当て ・圧迫する。（感染予防のためにビニール等を使用する。） ・患部より高くする。 など <p>5 包帯法の実習</p> <p>＜巻き包帯による方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・腕、指による実習 <p>（実施上の留意点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結び目は傷の上には作らない。 ・心臓に遠い方から巻く。 ・転がしながら皮膚に密着するように巻く。 ・関節部などは、曲げた状態で行う。 など <p>6 本時の学習の振り返りとまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに知識や技能について、記入する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 本時の課題について考える。 2 学習のねらいを確認する。 3 心肺蘇生法の意義や実施の手順の確認 4 心肺蘇生法の実習 ※訓練用的人形を使用 <p>※6人グループでの実習</p> <p>＜胸骨圧迫＞※留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・押す腕を垂直にする。 など ・仲間と交代で行う。 など <p>※救急隊やAEDの到着まで繰り返し行う。</p> <p>＜AEDの使用＞※留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電極パッドを貼る位置 ・周りへの注意喚起 ・AED実施後の対応 <p>P150 指導計画作成の留意事項(4) ガストティーチャー</p> <p>5 本時の学習の振り返りとまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに心肺蘇生法の留意点についてまとめ。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 これまでの学習内容を確認する。 2 学習のねらいを確認する。 3 傷害のケースに適した応急手当 <ul style="list-style-type: none"> ・様々な傷害のケースを示したカードを用意し、その状況に適した応急手当の方法と手順を考え、話し合ったことを意見交換する。 <p>自分たちの生活の中で実際に起こりうる事例などを想定し、これまでに学習してきたことをもとに、応急手当の方法や手順について意見交換し、実際に活用する場面について確認する。</p> <p>4 単元の振り返りとまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元を通して学んだことをこれまでの生活にどのような生かしていかかワークシートに記入する。 <p>習得した知識や技能を傷害の状況に適した応急手当を選択しているか、その選択したものに付いて伝えられているか評価する。</p>
評価計画	<p>知・技</p> <p>①</p>	<p>①</p>	<p>②</p>	<p>②</p>
評価計画	<p>観察・ワークシート</p> <p>4, 5</p>	<p>観察・ワークシート</p> <p>4, 5, 6</p>	<p>観察・ワークシート</p> <p>4, 5</p>	<p>観察・ワークシート・発言</p> <p>3, 4</p>

第4 本時の学習指導と評価、改善

1 本時の学習指導と評価、改善の考え方

1-1 1単位時間の指導計画と実践について

学習活動の一つ一つが、点ではなく線となってつながり、学びが積み上げられ深められていくことが重要である。

ねらい、活動、振り返り、それぞれのつながりを意識して、授業を展開していく。

【本時のねらい、活動の見通し等を示す】

- ・単元全体の位置付けやつながりを意識させるために前時の学習を振り返る。

【本時のねらいを達成するための活動に取り組ませる】

- ・たくさんの成果を味わわせるために教師が指導、助言、配慮することを具体的に示す。
- ・活動の場や時間を意図的に設ける。

ねらいに沿った指導と評価を繰り返す。

「努力を要すると判断される状況の生徒への指導の手立て」を実行する。

規準に達している生徒には、「十分満足できると判断される状況の生徒の具体的な姿」を目指し、指導する。

運動量や運動機会を十分確保する。

【本時のねらいに正対した振り返りとまとめを行う】

- ・生徒が自身の言葉によって振り返る。
- ・教師が本時のねらいに正対して本時をまとめる。

本時のねらいに沿った発問やまとめの例を事前に準備しておくとうい。

1-2 本時の学習指導と評価の留意点

(1) 本時のねらい

学習指導要領の内容や単元の目標に即して、本時で生徒に身に付けさせたいことを明確にし、どんな活動ができればよいか、生徒の実態と学習の進展状況を踏まえて具体的に示す。

※ 文末は「～することができるようにする。」と表記する。

※ 文の後に付ける〈 〉は育成を目指す資質・能力の三つの柱から該当するものを表記する。

(2) 準備

本時に使用する教具、用具、資料等を示す。

(3) 展開

導入から展開・整理へと生徒の楽しさを追求する活動を中心に考える。その楽しさを「本時のねらいの達成」という確かなものにするために、教師が個人・グループやチーム・全体等に何を指導し、どのような点に留意していくかをより具体的に明確に示す。

段階	学習内容・活動	指導上の留意点 (○指導 ◆評価規準)
導入 ○ 分	(例) 1 集合、挨拶、健康観察をする 2 前時の振り返りをする	<ul style="list-style-type: none"> ※ 本時の学習を円滑に進めるための留意事項を具体的に示す。 ・健康上注意を要する生徒の健康状況と指導上の留意事項 ・準備運動で特に注意を要する運動とその行い方、配慮する生徒、学習手段等の特徴等
	P150 指導計画作成の留意事項(2)	

	3 準備運動をする	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※ 全ての生徒に指導する内容を明確にし、指導上の留意点を示す。</p> <p>※ 一人一人の生徒が、本時のねらいを達成することができるように、教師が指導、助言、配慮することを具体的に示す。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: fit-content; margin: 10px auto; padding: 5px;"> P150 指導計画作成の留意事項(2) </div>
展 開 ○ 分	4 学習の場づくり、用具の準備をする (例)	
	5 感覚づくりの運動をする	
	6 本時のねらいや学習内容等の確認をする	

※ 主体的な学びの実現を引き出すために、生徒の活動に当てはめて本時のねらいを提示する

	7 活動をする ・課題やめあての解決に取り組む 8 練習の成果の確認をする ・記録会、発表会、ゲーム等 9 自己評価、相互評価をする <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: fit-content; margin: 10px auto; padding: 5px;"> P150 指導計画作成の留意事項(1) </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆単元の評価規準【観点】 「単元の評価規準」で示したものをそのまま記す。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>指導と評価が一体となるように、 「△努力を要すると判断される状況（C）の生徒への指導の手立て」 「◎十分満足できると判断される状況（A）の生徒の具体的な姿」 を示し、評価を次の指導に生かす。</p> </div>
--	--	---

整 理 ○ 分	(例)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※ 本時の学習を振り返るに当たっての留意事項を具体的に示す。</p> <p>※ 生徒の振り返りを受けて、評価の仕方やまとめ方についての要点を教師が説明する。</p> </div>
	10 整理運動、片付けをする	
	11 生徒が学習の振り返りをする <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: fit-content; margin: 10px auto; padding: 5px;"> P150 指導計画作成の留意事項(2) </div>	

※ 本時で学ぶべき内容について、ねらいに正対したキーワード等を用いてまとめる

	13 次時の連絡	
	14 挨拶	

2 学習指導案の実例（参考例）

＜事例4＞課題設定や解決を主体的に取り組めるよう、話し合い活動を充実することをねらった事例
第2学年 体育分野「球技」（バレーボール）
内容のまとめ：第1学年及び第2学年 ◆内容名 E 球技 イ ネット型 （編P120 参照）

保健体育科 学習指導案（例）

1 単元名「球技」（バレーボール）

2 運動の特性

(1) 一般的特性

バレーボールは、ネットを挟み相対するチームが、ボールを打ち合って得点を競う「ネット型」の競技である。また、空いた場所をめぐる攻防を行いながら、仲間と協力してボールをつなぎ、ボールを相手チームへ返して得点を取り合う種目である。

(2) 生徒から見た特性

バレーボールの楽しさや喜びを感じる要因	バレーボールを遠ざける要因
<ul style="list-style-type: none">・仲間とボールをつないで返球できたとき・得点したときやイメージ通りのプレイができたときの達成感・強いボールが打てたときの爽快感	<ul style="list-style-type: none">・仲間同士でボールがつながらないとき・ボールをイメージ通りに操作できないとき・強い返球に対する恐怖心・接触部位等の痛み

3 生徒の実態

(1) 知識及び技能

前年度は、バレーボールの成り立ちについて学習し、ルールや基本的な用語を理解している生徒が多く、半数以上の生徒がゲームや練習時に言葉に出すことができる。また、基本的なボール操作を学んでおり、オーバーハンドやアンダーハンドのパスを用いて仲間にボールを返球できる生徒が多い。

(2) 思考力、判断力、表現力等

毎時間の学習カードの成果と課題を生かして、話し合いを行える生徒が多い。また、全てのチームが自己の課題を仲間に伝え、練習に取り組める。

一方で、昨年は自己の課題を伝えることに消極的な生徒もいるが、リーダーを中心に練習方法を選びながら、話し合いの中で伝えようとする場面が増えている。

(3) 学びに向かう力、人間性等

昨年度から、チームの協力や仲間の支えを大切にしている生徒が多く、ゲームのセルフジャッジにも自ら申告する等のフェアプレイをしようとする様子が多く見られる。

4 教師の指導観

(1) 知識及び技能

ボールに多く触れる機会を増やすため、個人練習やペア練習を多く取り入れ、ボールを使用した運動時間を確保する。また、第2学年ではラリーが多く続くよう守備にも力を入れる。そのため、腰を落とすことや膝を曲げることの技術に関する理解を深められるよう、掲示物等を活用する。

(2) 思考力、判断力、表現力等

単元の中盤で技能の習熟度を確認し、自己の課題に気付ける時間を設定する。また、学習した知識及び技能を自己やチームの課題解決に活用できるよう、単元の終盤に課題解決的な学習を多く取り入れ、話し合い活動の活性化を図る。

「学びに向かう力、人間性等」の内容には、粘り強い取組を行おうとしている側面や自らの学習を調整しようとする側面が含まれている。（P152 参照）

(3) 学びに向かう力、人間性等

痛みや恐怖心を払拭して、生徒が繰り返し活動に取り組めるよう、教具の工夫やルールを簡素化する。また、チーム内での役割分担やゲームのジャッジを生徒に任せることで、全員が授業に参加し、取り組める学習環境を目指す。

5 単元の日標

- (1) バレーボールの特性や技術の名称などについて理解するとともに、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所を巡る攻防をすることができるようにする。 <知識及び技能>
- (2) 攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 <思考力、判断力、表現力等>
- (3) バレーボールに積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、仲間の学習を援助しようとするなどをしたり、健康・安全に気を配ったりすることができるようにする。 <学びに向かう力、人間性等>

当該単元で身に付ける項目を記入する。(P157 参照)

6 単元の評価規準 (例)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>○知識</p> <p>①集団対集団で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。</p> <p>②バレーボールにおいて用いられる技術には名称があり、それらを身に付けるためのポイントがあることについて学習した具体例を挙げている。</p> <p>○技能</p> <p>③テイクバックをとって肩より高い位置からボールを打ち込むことができる。</p> <p>④相手側のコートの中を空いた場所にボールを返すことができる。</p> <p>⑤プレイを開始するときは、各ポジションの定位置に戻るることができる。</p>	<p>「単元の日標」として設定した内容について、全ての「単元の評価規準」から選択するなどして、当該単元における「単元の評価規準」を設定する。(P157 参照)</p> <p>①提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。</p> <p>②学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。</p> <p>③仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。</p> <p>当該単元における「単元の評価規準」として設定していない項目については、第1学年で設定したり、球技の他の種目で設定したりしている。(P157 参照)</p>	<p>①バレーボールの学習に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>②マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして、フェアなプレイを守ろうとしている。</p> <p>③練習の補助をしたり仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。</p> <p>④健康・安全に留意している。</p>

7 単元計画

(1) 領域の取り上げ方

学年 / 運動	バレーボール (ネット型)	ソフトテニス (ネット型)	バスケットボール (ゴール型)	サッカー (ゴール型)	ソフトボール (ベースボール型)
第1学年	8時間	8時間	—	—	10時間
第2学年	10時間	—	7時間	7時間	—
第3学年	12時間		12時間		12時間

※第1・2学年で、全ての型を必修。

※第3学年は、「バレーボール」「ソフトテニス」から選択。「バスケットボール」「サッカー」から選択。「ソフトボール」を必修。

(2) 内容 (運動種目) の取り上げ方

学年	教材	目指す動き
1	バレーボール	<ul style="list-style-type: none"> ・簡易的なゲームでラリーを続ける。 ・基本的なボール操作とボールを持たないときの動きを身に付ける。
2	バレーボール	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間と連携したゲームでラリーを続ける。 ・定位置に戻る等の動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開する。
3	バレーボール	<ul style="list-style-type: none"> ・ポジションの役割に応じたボール操作や仲間と連携する。 ・一連の流れで攻撃を組み立てたり考えたりする。

(3) 指導と評価の計画 (10時間扱い) 本時は○印 5/10時

ねらい	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ねらい	バレーボールの楽しさを知らせよう	基本的な技術を確認しよう	基本的な技術に付けよう	協力してゲームに挑戦しよう	肩より高い位置からボールを打って、相手コートに返そう	攻撃の切り替えを早くしよう	チームの特徴を考えて練習しよう	空いた場所をねらって、たくさん点を取ろう	仲間と協力してゲームを楽しもう	
指導内容	・特性や約束事 ・役割分担 ・準備、片付けの仕方	・ボールの扱い方 ・パスの行い方	・片手打ちの練習 ・サービスの練習	・ボールや相手に正対する動き方 ・ゲームの行い方	・テイクバックの取り方 ・ステップ・助走の行い方	・ポジションへ戻る動き方 ・攻撃の切り替え	・自己やチームの課題の明確化 ・ゲームの行い方紹介	・チームの課題に応じた練習方法 ・返球パターンの紹介	・まよめの試合 ・仲間との協力の仕方	・まよめの試合 ・フェアプレイ
学習過程	1 特性や約束事の確認	1 用具の準備	2 集合・挨拶・健康観察	3 準備運動	4 感覚づくりの運動	5 ねらいの確認	6 課題解決練習 ・話し合い活動 ※多くの得点を取るためには ・練習方法の決定 ※既習事項から選択	6 課題解決練習 ・話し合い活動 ※多くの得点を取るためには ・練習方法の決定 ※既習事項から選択	6 課題解決練習 ・話し合い活動 ※多くの得点を取るためには ・練習方法の決定 ※既習事項から選択	6 課題解決練習 ・話し合い活動 ※多くの得点を取るためには ・練習方法の決定 ※既習事項から選択
学習過程	2 学習の準備 ・グループ編成や役割分担 ・学習カードや資料の活用方法 ・練習の場や練習方法の確認	6 技術の確認 【攻撃】 ・レシーブ ・トス ・片手打ち ※ICTの活用(動きの確認)	6 攻撃練習 【チーム練習】 ・前時の復習 ※高い位置でのボールの捉え方 P150 指導計画作成の留意事項(2)	6 攻撃練習 【チーム練習】 ・トス→片手打ち練習 ・話し合い活動 ※高い位置でのボールの捉え方 P150 指導計画作成の留意事項(2)	6 守備練習 【チーム練習】 ・定位置に戻る練習 ・チームで攻守交代 ・話し合い活動 ※相手に得点を与えない方法 P150 指導計画作成の留意事項(2)	6 課題解決練習 ・話し合い活動 ※多くの得点を取るためには ・練習方法の決定 ※既習事項から選択	6 課題解決練習 ・話し合い活動 ※多くの得点を取るためには ・練習方法の決定 ※既習事項から選択	6 課題解決練習 ・話し合い活動 ※多くの得点を取るためには ・練習方法の決定 ※既習事項から選択	6 課題解決練習 ・話し合い活動 ※多くの得点を取るためには ・練習方法の決定 ※既習事項から選択	6 課題解決練習 ・話し合い活動 ※多くの得点を取るためには ・練習方法の決定 ※既習事項から選択
学習過程	3 前年度の復習	7 技術の確認 【守備】 ・ステップ ・構え方 ・動き方 P150 指導計画作成の留意事項(3)	7 ゲームI ○教師の説明 ・ルールの確認 ・声かけの方法 P150 指導計画作成の留意事項(2)	7 ゲームI ○教師の説明 ・ルールの確認 ・声かけの方法 P150 指導計画作成の留意事項(2)	7 ゲームI ・役割分担の決定 ・全員が成果を発揮する機会を作る P150 指導計画作成の留意事項(5)	7 ゲームII ○教師の説明 ・ルールの確認 ・審判法の確認 P150 指導計画作成の留意事項(2)	7 ゲームII ○教師の説明 ・ルールの確認 ・審判法の確認 P150 指導計画作成の留意事項(2)	7 ゲームII ○教師の説明 ・ルールの確認 ・審判法の確認 P150 指導計画作成の留意事項(2)	7 ゲームII ○教師の説明 ・ルールの確認 ・審判法の確認 P150 指導計画作成の留意事項(2)	7 ゲームII ○教師の説明 ・ルールの確認 ・審判法の確認 P150 指導計画作成の留意事項(2)
学習過程	4 感覚づくりの運動	7 技術の確認 【守備】 ・ステップ ・構え方 ・動き方 P150 指導計画作成の留意事項(2)	7 ゲームI ○教師の説明 ・ルールの確認 ・声かけの方法 P150 指導計画作成の留意事項(2)	7 ゲームI ○教師の説明 ・ルールの確認 ・声かけの方法 P150 指導計画作成の留意事項(2)	7 ゲームI ・役割分担の決定 ・全員が成果を発揮する機会を作る P150 指導計画作成の留意事項(5)	7 ゲームII ○教師の説明 ・ルールの確認 ・審判法の確認 P150 指導計画作成の留意事項(2)	7 ゲームII ○教師の説明 ・ルールの確認 ・審判法の確認 P150 指導計画作成の留意事項(2)	7 ゲームII ○教師の説明 ・ルールの確認 ・審判法の確認 P150 指導計画作成の留意事項(2)	7 ゲームII ○教師の説明 ・ルールの確認 ・審判法の確認 P150 指導計画作成の留意事項(2)	7 ゲームII ○教師の説明 ・ルールの確認 ・審判法の確認 P150 指導計画作成の留意事項(2)
学習過程	5 学習の振り返り・まよめ	7 技術の確認 【守備】 ・ステップ ・構え方 ・動き方 P150 指導計画作成の留意事項(2)	7 ゲームI ○教師の説明 ・ルールの確認 ・声かけの方法 P150 指導計画作成の留意事項(2)	7 ゲームI ○教師の説明 ・ルールの確認 ・声かけの方法 P150 指導計画作成の留意事項(2)	7 ゲームI ・役割分担の決定 ・全員が成果を発揮する機会を作る P150 指導計画作成の留意事項(5)	7 ゲームII ○教師の説明 ・ルールの確認 ・審判法の確認 P150 指導計画作成の留意事項(2)	7 ゲームII ○教師の説明 ・ルールの確認 ・審判法の確認 P150 指導計画作成の留意事項(2)	7 ゲームII ○教師の説明 ・ルールの確認 ・審判法の確認 P150 指導計画作成の留意事項(2)	7 ゲームII ○教師の説明 ・ルールの確認 ・審判法の確認 P150 指導計画作成の留意事項(2)	7 ゲームII ○教師の説明 ・ルールの確認 ・審判法の確認 P150 指導計画作成の留意事項(2)
学習過程	6 次時の予告	7 技術の確認 【守備】 ・ステップ ・構え方 ・動き方 P150 指導計画作成の留意事項(2)	7 ゲームI ○教師の説明 ・ルールの確認 ・声かけの方法 P150 指導計画作成の留意事項(2)	7 ゲームI ○教師の説明 ・ルールの確認 ・声かけの方法 P150 指導計画作成の留意事項(2)	7 ゲームI ・役割分担の決定 ・全員が成果を発揮する機会を作る P150 指導計画作成の留意事項(5)	7 ゲームII ○教師の説明 ・ルールの確認 ・審判法の確認 P150 指導計画作成の留意事項(2)	7 ゲームII ○教師の説明 ・ルールの確認 ・審判法の確認 P150 指導計画作成の留意事項(2)	7 ゲームII ○教師の説明 ・ルールの確認 ・審判法の確認 P150 指導計画作成の留意事項(2)	7 ゲームII ○教師の説明 ・ルールの確認 ・審判法の確認 P150 指導計画作成の留意事項(2)	7 ゲームII ○教師の説明 ・ルールの確認 ・審判法の確認 P150 指導計画作成の留意事項(2)
学習過程	7 挨拶・片付け	7 技術の確認 【守備】 ・ステップ ・構え方 ・動き方 P150 指導計画作成の留意事項(2)	7 ゲームI ○教師の説明 ・ルールの確認 ・声かけの方法 P150 指導計画作成の留意事項(2)	7 ゲームI ○教師の説明 ・ルールの確認 ・声かけの方法 P150 指導計画作成の留意事項(2)	7 ゲームI ・役割分担の決定 ・全員が成果を発揮する機会を作る P150 指導計画作成の留意事項(5)	7 ゲームII ○教師の説明 ・ルールの確認 ・審判法の確認 P150 指導計画作成の留意事項(2)	7 ゲームII ○教師の説明 ・ルールの確認 ・審判法の確認 P150 指導計画作成の留意事項(2)	7 ゲームII ○教師の説明 ・ルールの確認 ・審判法の確認 P150 指導計画作成の留意事項(2)	7 ゲームII ○教師の説明 ・ルールの確認 ・審判法の確認 P150 指導計画作成の留意事項(2)	7 ゲームII ○教師の説明 ・ルールの確認 ・審判法の確認 P150 指導計画作成の留意事項(2)
評価計画	知・技 思・判・表 態	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
評価計画	観	観	観	観	観	観	観	観	観	観
評価計画	場面	6, 7	6, 7	6, 7	6, 7	6, 7	6, 7	6, 7	6, 7	6, 7

1時間の「学習評価の観点」は、原則一つ(本時のねらい、指導内容、学習過程において、関連が深い場合は二つまで可)とし、適切に評価できるようにする。また、努力的な生徒への具体的な手立ては、単元を通じて講じるとともに、単元終了時まで総合的に指導と評価を繰り返すことが大切である。(P158 参照)

8 本時の学習と指導 (5 / 10 時)

本時のねらいの表記
(P165 参照)

(1) ねらい

テイクバックをとって肩より高い位置からボールを打ち込むことができるようにする。

〈知識及び技能〉

(2) 準備 ボール タイマー ビブス 得点板 バドミントン支柱 ネット 学習カード

(3) 展開

段階	学習活動・内容	指導上の留意点 (○指導 ◆評価規準)
導入 10分	1 用具の準備 2 集合、挨拶、健康観察 3 準備運動 4 感覚づくりの運動 (1) キャッチボール (2) 直上オーバーハンドパス (30 秒) (3) 直上アンダーハンドパス (30 秒) (4) 2 人組対面パス (1 分) (5) 三角パス (1 分) (6) 打ってレシーブ (交互に 1 分ずつ)	○安全に協力して準備できるようにする。 ○体調不良、見学者を確認し活動を指示する。 ○リーダーを中心に、大きな声と動作で行えるようにする。 ○感覚づくりの運動は、ボールを落とさず行えるようにする。 ○練習やゲームに活用できる必要な技術であることに気付かせ、助言し合いながら行えるようにする。
展開 30分	5 ねらいの確認 肩より高い位置からボールを打って相手コートへ返そう。	○学習カード等で前時を振り返り、本時のねらいとの関連付けを図る。 ねらいの提示 (P166 参照)
	6 攻撃練習 ・ トス (両手投げ) にタイミングを合わせて打つ練習 P150 指導計画作成の留意事項 (1) ■…アタッカー ▲…トス ●…アタック位置 つり下げボール ※既習事項の活用 ・ 話し合い活動 ＜話し合いの内容と解決策 (例)＞ ○「肩より高い位置でボールを打つには？」 ・ 伸び上がるときに腕を振り上げる。 ・ 肘を伸ばして腕を振り切る。 ○「より勢いのあるボールを打つには？」 ・ ジャンプして、より高い位置から打つ。 ・ 落ちるボールにタイミングを合わせる。	○教師 (生徒) が見本を見せる。 ○主体的に意見交換をして、動きのイメージがもてるようにする。 P150 指導計画作成の留意事項(2) ○チーム全員が練習できるようにする。 ○活動の中でも声かけできるようにする。 ◆テイクバックをとって肩より高い位置からボールを打ち込むことができる。(観察) 【知識・技能】
	7 ゲーム I ＜ルール＞ ・ サービスはスローインまたはアンダーハンドサービス (コート内) ・ レシーブはキャッチする ・ キャッチしたボールを持ったまま移動可 ・ 3タッチまたは4タッチで相手コートへ ・ ブロック禁止 ・ サーブ権が自チームになった時に、ポジションを時計回りに1つ移動する。	○チーム全員が練習できるようにする。 ○活動の中でも声かけできるようにする。 ○テーマを与える等、巡回して話し合いを補助する。 △努力を要すると判断される状況 (C) の生徒への指導の手立て ・ 静止した状態でつり下げ式ボールを打つことで、腕の振り上げと肘を伸ばして打つ感覚をつかめるようにする。 ◎十分満足できると判断される状況 (A) の生徒の具体的な姿 ・ 跳び上がりながら全身を使って、ボールを打つことができる。 ・ 助走からボールを打つまでの一連の動作が繰り返しできる。
8 集合・整理運動・健康観察 9 学習の振り返りとまとめ まとめ (例) ボールにタイミングを合わせて腕を振り上げると、肩より高い位置でボールが打てる ねらいに正対したまとめ (P166 参照)	○よい点や努力している姿を積極的に称賛する。 ○チームでまとまって行うようにする。 ○振り返りは、学習カードを活用する。 ○発表は、数名の生徒を指名する。 ○生徒の言葉をつなげ、全体をまとめる。	
10 次時の予告 11 挨拶・片付け	○次回の見通しがもてるように説明する。 ○大きな声で元気よく挨拶できるようにする。 ○協力して用具の片付けを行うようにする。	

第5 保健体育科における学習評価への総括例

1 単元における観点ごとの評価の総括例

単元の観点別学習状況の評価については、それぞれ1時間ごとの学習評価を基に出す。

その際、1時間ごとの学習評価はねらいに準拠した適切な評価を行うことが基本となるが、生徒のよい点や可能性、進捗状況を把握し、評価することも大切である。そのため、保健体育科においては、生徒の運動場面以外の観察や学習カードの内容等を評価につなげることも重要となる。

<観点別学習状況の評価の総括例（参P89）>

＜単元名 第2学年（3）「傷害の防止」（8時間扱い）＞													
評価機会		知識・技能					思考・判断・表現				主体的に学習に取り組む態度		
時間	1	2	5	6	7	総括	3	4	8	総括	8	総括	
													傷害の発生要因
評価方法	観察・ワークシート					観察・ワークシート				観察			
生徒名	観察・ワークシート												
生徒1	A	B	A	B	A	A	B	A	A	A	A	A	A
生徒2	B	C	C	B	C	C	B	B	C	B	B	B	B
A B Cを数値に置き換えて総括する場合（3段階の例） A=3, B=2, C=1ととし、総括の結果をBとする範囲を[2.5≧平均値≧1.5]とする。 2.5を上回る場合はA、平均値が1.5未満の場合はCとした場合数値化した場合													
生徒1	3	2	3	2	3	A	2	3	3	A	3	A	
平均値2.6						平均値2.6				平均値3.0			
生徒2	2	1	1	2	1	C	2	2	1	B	2	B	
平均値1.4						平均値1.6				平均値2.0			

総括を行う際、観点別学習状況の評価にかかる記録が、観点ごとに複数ある場合は、例のように数値に置き換える場合や特定の時点に重きを置いて評価を行うなど、様々な総括の方法が考えられる。また、総括結果が「A、B、C」のように同数や三つの記号が混在する場合など、総括の仕方をあらかじめ各学校で決めておく必要がある。加えて、総括の考え方や方法については、授業を担当する教師間で共通理解を図り、生徒及び保護者に説明しておくことも大切である。

2 学期末における観点ごとの評価の総括例

学期末には、単元における観点ごとの評価を総括し、それぞれ観点別学習状況の評価を出す。

総括の仕方については、各観点における学習状況評価をA、B、Cの3段階で評価する場合や、この段階から5段階（例A°ABC C^）で評価する場合などが考えられる。

下記に、5段階を数値化（A°→5、A→4、B→3、C→2、C^→1）して総括する例を示す。

<第1学年1学期の総括時の検討例（参P61）>

評価機会		知識・技能							思考・判断・表現				主体的に学習に取り組む態度			
単元名 生徒名	体づくり運動 (4時間)	陸上競技 (10時間)		球技・ゴール型 (10時間)			総括の平均値	体づくり運動 (4時間)	陸上競技 (10時間)	球技・ゴール 型(10時間)	総括の平均値	体づくり運動 (4時間)	陸上競技 (10時間)	球技・ゴール 型(10時間)	総括の平均値	
		知識	技能	知識	技能	知識										技能
生徒1	BB	A° A	BBAA°	AA°	BAB	AorB (A)	AorB (B)	A A	B B	A A B	AorB (A)	B	A° A	B A	AorB (A)	
(数値化)	③③	⑤④	3345	④⑤	343	④	3.57	4 4	3 3	4 4 3	3.57	3	5 4	3 4	4	

観点別学習状況の評価の総括及び評定への総括を行うに当たっての留意事項（参P61）

ア 指導と評価の一体化の考え方を踏まえると、体育分野で育成を目指す資質・能力に対応した指導内容をバランスよく指導し評価することが求められる。

イ 観点別学習状況の評価の総括及び評定への総括を行うに当たっては、各単元への配当時間数や指導事項に対応した評価規準数を考慮するのか、観点別学習状況の評価を評定へ総括する際に観点ごとの比率を設定するのか等も含め、観点別学習状況の評価の総括及び評定への総括についての考え方や方法等を、各学校において十分検討しておく必要がある。

ウ シラバスやオリエンテーション等の機会を通して、事前に生徒及び保護者等に対して十分な説明をしておくことが重要である。

詳しくは、総則編P7を参照すること

3 学年末における観点ごとの評価の総括例

学年末（指導要録）の評定への総括は、あらかじめ各学校で決めておいた基準で行う。評定は、年間を通したそれぞれの学期の各観点別の総括結果を基に作成することができる。その際、目標に準拠した評価となっているかを確認する。また、生徒一人一人のよい点や可能性、進捗の状況などを授業中の教師の言葉かけやワークシートへの教師の記述などを通して評価する。